

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年5月発行 No. 364

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: honbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その7

お手玉外交でハワイやロスなどへ②[2/2] (宮中雲子)

平成12年12月には「ザ 祭り イン シドニー」に参加しました。この時は19人の参加でした。前夜祭では州政府、オーストラリア政府観光局、シドニー日本国総領事館の方々から、お祝辞をいただきました。祭りの本番では、日本のお手玉の会の横断幕を先頭にパレードをしました。タンバリングパークは広々とした緑の芝生。そこでのお手玉の披露や、参加してくれたその地の人々との交わりに、印象深いものがありました。

日本語・英語・フランス語を交えて指導

平成19年6月には「ニューカレドニア日本文化祭り」には、各地からの参加者に加え東京から4人が参加しました。天国に一番近い島として知られているニューカレドニアはフランス語圏です。参加した人の多くが、老人施設の訪問にいてしまい、気がついたら東京組がお手玉づくりの指導をすることになっていました。ニューカレドニアの人たちは熱心に教えを求めてきます。しかし、フランス語は大学の第2外国語として2年間勉強しただけ、日本語と英語、フランス語にジュエチャーを交えての指導は、困難を極めました。(写真上・シドニーでのお手玉をしながらのパレード)



繰り返しのレペテ (répéter) を何度も使うと、縫ってはいけないところまで縫ってしまい、それをほどくのにもまた一苦勞でした。でも作ったお手玉を持って、嬉しそうな笑顔をして下さると、頑張らなくっちゃと思うのでした。(写真上：ロサンゼルスでのU S ジャパンエキスポでのお手玉交流)

お手玉の会での外国遠征は、まだまだたくさんあったのですが、私は仕事をしながらで、本当に少ない参加でした。けれど外国でのお手玉は、そこに暮らす人々と直に付き合えて、観光旅行とは違った喜びがありました。(日本のお手玉の会会長・詩人・日本童謡協会理事)